

2017年3月23日～25日 神戸大学附属中等教育学校

1. 震災・復興とリスクマネジメント (○)
2. 国際都市神戸と世界の文化 ( )
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ ( )
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸 ( )
5. その他 ( )

[概要]

## 第3回仙台交流プログラムを実施しました

### 1 テーマ

神戸大学附属中等教育学校 SGH「震災・復興とリスクマネジメント」

震災(Disaster)・復興(Reconstruction)・減災(Reduction)・レジリエンス(Resilience) (DR3)をテーマとした仙台交流プログラム

(通称:DR3)

### 2 目的

被災地体験を共有する神戸市と仙台市の高校生・大学生が交流しながら、大規模震災に対するリスクマネジメントについて多角的な視点から学ぶ。

具体的には、神戸大学附属中等教育学校と仙台周辺の高校生・大学生が交流しながら、

- (1) 身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう自然災害について共に学ぶ
- (2) 震災遺構見学や語り部講話などを通して震災の記憶をどのように後世に伝えていくかを共に考える**
- (3) 津波堆積物ボーリング調査などを通して、自然科学的研究手法から震災を捉え、理解する
- (4) 上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を共に目指すことを主たる目的とする。

### 3 行程

3/23	6:10 8:25 11:30 12:00-12:50 13:30-16:00 16:30-18:00 18:00-19:00	関西国際空港集合 仙台空港着→仙台駅（仙台空港アクセス線） 仙台駅→仙台朝市→仙台駅 仙台駅→塩釜駅 宮城県塩竈高等学校 4校時授業参加・交流 昼食 塩竈周辺フィールドワーク マリンゲート→多賀城高等学校 宮城県多賀城高等学校・交流 多賀城市内まちあるき 多賀城駅→陸前原ノ町駅
3/24	7:30 9:00-11:20 12:19 12:40-13:46 14:00-16:00 19:00 20:30-22:00	東仙台駅→仙台駅→荒井駅→荒浜 荒浜～荒浜ロッジ（海辺の図書館） 荒浜→浪分神社，霞の目営業所前→仙台駅 仙台駅→古川黎明前 宮城県古川黎明中高等学校（SSH校） 塚目駅→陸前戸倉駅→ホテル観洋 大川小学校遺族佐々木さんとの交流
3/25	8:00-8:30 8:45-9:45 10:00-11:15 11:15-11:40 11:40-12:20 12:20-13:00 14:00-15:00 15:00-16:00 15:52-15:45 17:56-18:27	ホテル観洋女将さんによる震災体験の講話 ホテル観洋「語り部バス」南三陸町視察 さんさん商店街・南三陸町長との懇談 さんさん商店街→大川小学校 大川小学校跡地見学 大川小学校→石巻駅 震災の語り部プログラム 防災まちあるきプログラム石巻FW 石巻駅→仙台駅 仙台駅→仙台空港
	20:10	仙台空港発
	21:50	関西国際空港着・解散

活動の様子



宮城県塩竈高等学校との交流



神戸と塩竈の地形図を用いて共同学習



塩竈のお寿司



塩竈フィールドワーク@塩竈神社にて



宮城県多賀城高等学校との交流



ディスカッション



荒浜ロッジ



海辺の図書館を運営する庄司さんとの交流



海辺の図書館にて



荒浜ロッジで庄司さんとともに



古川黎明高等学校にて



震災・防災・減災についてのディスカッション



ホテル観洋にて



ホテル観洋女将さんの講話



ホテル観洋語り部バス



南三陸町長との交流@さんさん商店街



大川小学校にて



大川小学校にて



大川小学校裏山に登りました



みらいサポート石巻にて被災状況を学びました



語り部さんからの講話



石巻の町歩き



iPad を使って当時の状況を見ています



津波は 2.5m くらいまで来ています

参加生徒の所感  
(4年生)

今回の活動に2つの目的を持って参加した。1つ目は、「復興とは何か」ということである。この問いの答えは明確には出せなかったが、被災者は復興というものをどのように捉えているのかを知ることができた。たくさんの方に話を聞いた中で共通していたことは、町に人が行き交っているという状態が復興で目指す姿だということである。人がいてこそ町というものがあるため、まずはどうすれば安心できる町に変えてゆくかを考え、その後にそこに人をどのように呼び込むかを検討することが重要であると分かった。

2つ目はKP(卒業論文)に生かすために、被災地での地域コミュニティの課題を知るということである。多賀城高校とコミュニティの喪失という仮設・復興住宅の課題を話し合った。ここから、外的要因がないとコミュニティは形成されない、つまり自主的にコミュニティは作られるものではないのかという疑問を持った。周りがコミュニティ形成のために動くということは、何か間違っている気がした。「コミュニティのあり方」と「コミュニティの成り立ち」について新たな発見があったためこれを今後のKP(卒業論文)に生かしていく。

今回の研修で一番良い経験になったのは、古川黎明高校での発表である。発表を経て、人前で話すことに抵抗がなくなったように思う。今回の活動を終えて、災害に対する意識が身近になった。このような意識を多くの人に持ってもらえるように今回の活動で学んだことを伝えていきたい。

(5年生)

私にとって今回の仙台交流プログラムは2度目の参加でした。プログラムの中には、今まで交流したことのない学校や訪れたことのない場所で学習したり

と自分にとって新しいことはもちろん、第1回仙台交流の際に訪れた南三陸町をもう一度訪れる機会もありました。南三陸町ではさんさん商店街が移転して復興の様子を比べたり、以前講話をしてくださったさんさん商店街の及川さんにも再会し、お話を伺うことも出来たので、私にとってとても充実した学習・活動になりました。学校交流でも私はこれまで交流を行ったことのある学校と初めて交流を行った学校があり、議論を深めるだけでなく、さらに生徒同士の交流を深めることもできたと思います。

また、今回活動に参加したのは私以外は4年生で、今後仙台交流DR3プロジェクトの中心となるメンバーだったため、今後の交流活動なども継続的に行ってほしいと思いました。また私自身も今回仙台で学んだことをしっかりと神戸に還元出来るように自身の課題研究やDR3プロジェクトの活動を通して行っていきたいと思いました。